



第2回福祉・たすけあい事業部会視察・研修報告

昨年度「居場所」をテーマに活動をし、法政大学大学院教授の石山恒貴先生による「サードプレイスを人生と地域にいかす」と題した学習会をおこないました。サードプレイスとは「家庭でも職場でもなく、人々が気軽に集まり交流できる、憩いのある楽しい場所」です。11月18日（金）の第2回福祉・たすけあい事業部会では石山先生の学習会で紹介された2か所を視察研修しました。

○視察先1 コワーキングスペースチガラボ

所在地 神奈川県茅ヶ崎市 崎駅から徒歩4分

設立 2017年

コンセプト ヒトとヒトのゆたかなつながりから、あたらしいTAKURAMIが生まれつづける社会に



代表の清水さん

ものを展示し、見た人とつながるきっかけを作ることができます。また、「TAKURMI」という仕掛けを月に2回開催し、どんな小さなテーマでも「自分がやりたい、伝えたい」ということをチャレンジできる場を提供しています。

コワーキングスペースなので、訪れたときには仕事をしたり、オンラインでの学校の授業を受けたり、またレポートを作成したりする人がいました。そしてお昼になるとランチを食べに年配の女性をはじめ様々な年代の人が入ってきました。ビルの5階という決して入りやすい場所ではありませんが、何となく人が集まる空間になっていることがわかります。壁面いっぱいの本棚の仕切りにはそれぞれのオーナーが、自分の興味のある



それぞれのオーナーの個性がわかる本棚

チガラボは地域のハブとなり、ヒトやモノ、コトが繋がるきっかけとなっています。代表の清水さんは、様々な特徴のあるコミュニティが地域にたくさん存在し、自分の状況、状態によって行きたい場が選べるようになればいいと言っていました。



ランチも食べられます

視察先2 港南台タウンカフェ

所在地 神奈川県横浜市港南区 南台駅から徒歩2分

設立 2005年

コンセプト つながりづくりから始まる
まちづくりのカタチを実践しています



駅から歩いて2分弱という好立地のビルの2階にあるカフェは、開設から17年という年月が木を温かい色合いに落ち着かせ、ぬくもりにあふれた居心地のいい空間に作り上げています。こちらも店内に入ると壁面を埋め尽くす木の棚



小箱ショップ 棚の空き待ちが大勢いるそうです。

が目に飛び込んできます。この奥行き36センチの100個ほどの棚には「小箱ショップ」と呼ばれ、棚のオーナーがハンドメイドの作品を展示販売しています。その棚のレンタル料はカフェを運営してく上での大きな収入源の一つとなっています。またその作家同士の交流の場を定期的に提供することで、作家同士のつながりが生まれ、カフェでのワークショップや企画開催、さらにはカフェを飛び出し地域のイベントに参加など繋がりが広がっています。

今回訪問した2つの居場所は、雰囲気も対象も全くちがいますが、どちらも「つながる」ことが大きなテーマになっています。訪れた人が居心地よく過ごすうちに 何となく誰かと繋がり、



代表の齋藤さんに説明を聞いています。

そこからいろいろな可能性が生まれ、知らないうちに地域に根付いています。運営面では自立を守るために自己資金で運営していることも共通していました。昨年の石山先生の学習会で学んだサードプレイスですが、それぞれの場づくりの思いを直に聞くことができ勉強になりました。

以上